



# DX取組における現時点の成果と課題

# FUTURE

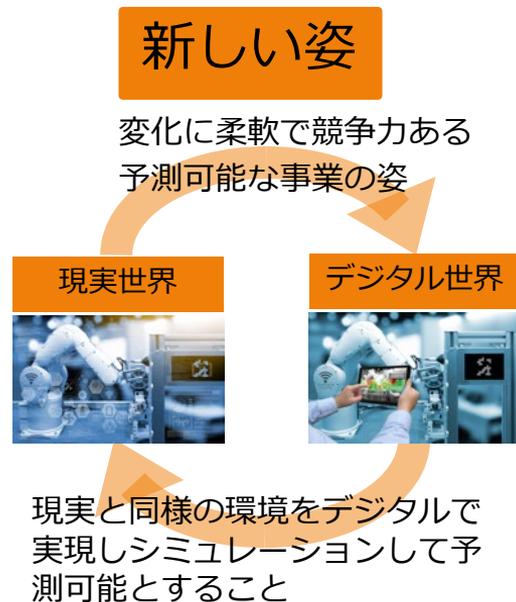
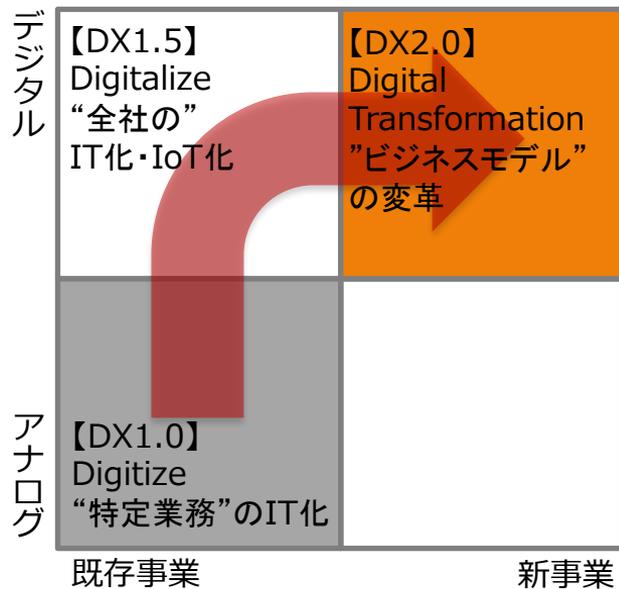
未来へ向けた、産業構造変革を共に。

2022/ 9/16

株式会社INDUSTRIAL-X  
代表取締役CEO 八子 知礼

# DXにおいて目指すもの

- デジタル技術をビジネス全体にわたって活用する事でビジネス（商材、企業の姿、業務）やライフスタイルなどをこれまでとは異なる新しいモデルに変革すること。
- DXで目指すのはデジタルツインによる予測可能な新しい姿です。



## ①可視化のドア



現場の状態・人やモノの動き・取引の動きなどをデジタル技術で可視化する段階。

取り組む前にデジタル化やITに対する忌避感を持つ企業が多い。

心理/リソースの壁を越える

## ②全体最適のドア



各部門・部分最適な取組から、部門を越え、全社でスループット最適化する段階。

全社が目指す姿が定まっている必要があるが、それが無い企業が多い。

組織の壁を越える

## ③新価値創出のドア



全体最適化した自社での仕組みの外販や既存事業には無い新たな価値を市場に創出して利益を得る段階。

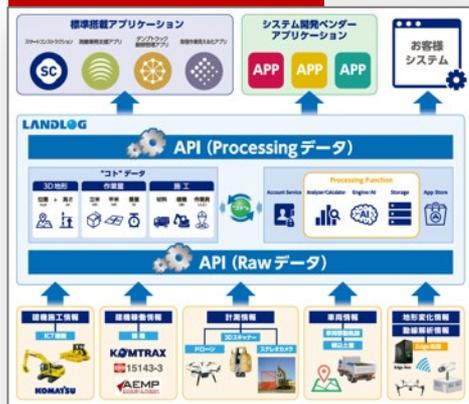
既存の会社の枠組みの延長でしか考えられない企業が多い。

既存ビジネスの壁を越える

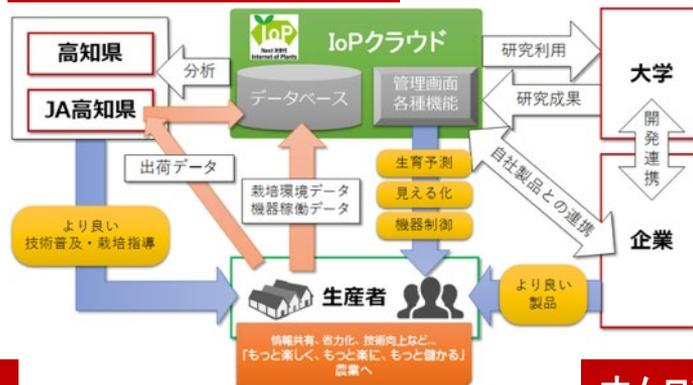
# 特に力を入れて取り組んできたこと、その成果

- DXを通じてある業界を共同利用可能でデータを活用できる“プラットフォーム化”することで新規事業に進出することに力点を置いて取り組んできました。（18の業界・企業でのオープンPFプロジェクト関与）

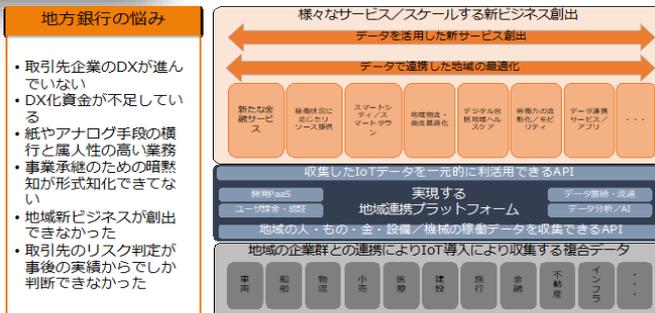
## コマツのLANDLOG



## 高知県の農業クラウドIoP



## 地銀の地方創生基盤



## オムロンの工場基盤i-BELT



# 支援事例：高知県IoP (Internet of Plants) クラウド

- 高知県は10年間で70億円を投じて、農業のDXを推進しており、弊社は設計段階から参画しています。
- 産学官連携による農業データ蓄積プラットフォームおよび活用アプリケーションを構築し、「楽しく、楽に、儲かる」農業の実現を目指しています。



<https://kochi-iop.jp/>



八子は2019年4月よりプロジェクトのスーパーバイザー（クラウド構想/IoP推進機構担当）2020年4月よりIoP推進機構理事

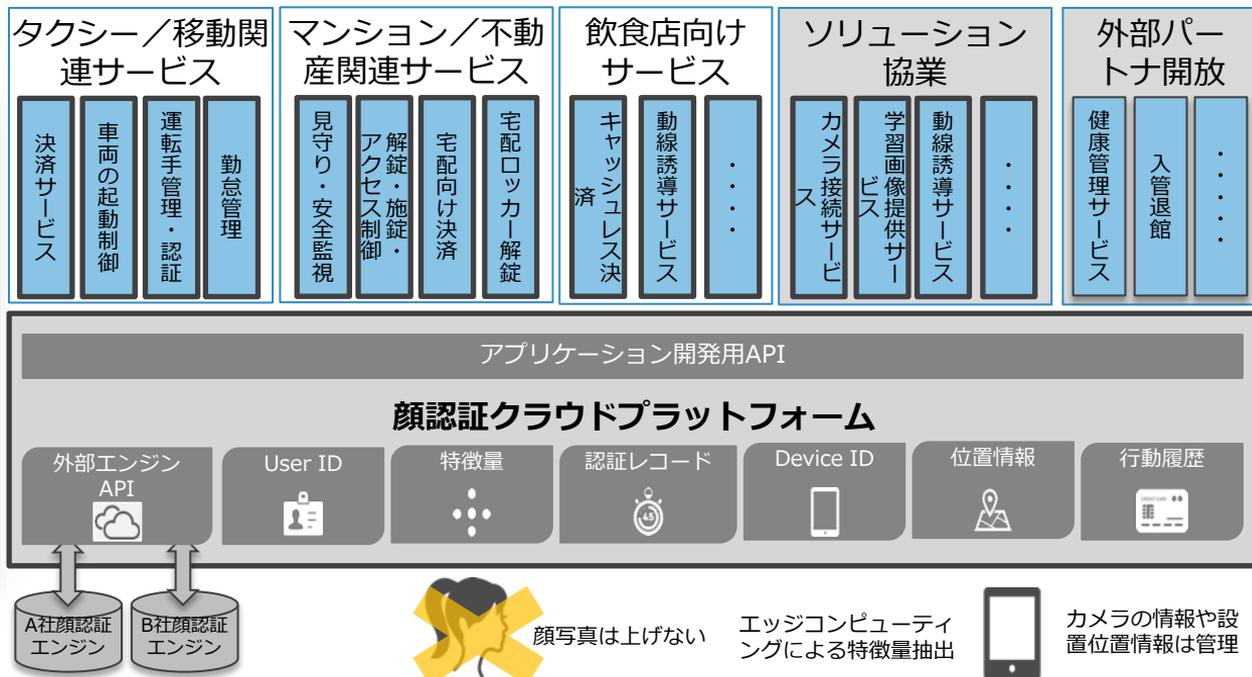
2,000戸の農家のデータを蓄積（最終的に6,000戸）

主要7品目の温度・湿度・水分量・日照等を毎分収集してAIで高精度に収穫量を予測

全国の市場からの発注量と突合して受給バランスを最適化

2022年10月よりAPI開放、他県でも利用可能へ

- プロパティエージェント（株）では自動運転で街が変わる将来を見据え、顔認証PF「FreeID」を開発。
- カメラで撮像した顔の特徴量のみをクラウドに保存し様々な他サービスと連携できることがポイントです。
- 三菱地所と連携して丸の内エリアの“Machi Pass FACE”で実装し、新たな生活体験を実現しています。



# 取り組んできたが、うまくいっていないこと

デジタルはINPUT入れるとちゃんとOUTPUTが出る

DXで目指す姿がない  
デジタルがわからない  
ITリテラシーが低い

デジタルな取組をやろうとすると  
物理的なものがボトルネックになり

人的な事を解決しようとする  
デジタルな要素がボトルネックになり

DX・魔のデッドロック

設備が古い  
システムが古い  
投資する余力がない

物理的な事を解決しようとする  
人的な要素がボトルネックになり

属人性が強い  
新しいスキルがない  
自動化後の配転が  
できない

フィジカルは正しいリソース入れる  
と正しい製品が出る

ヒューマンは正しいと思われる入力を与えてもその通り動かない  
(人の意識が変わらないのが最大の課題)

# DXを進める上で、苦勞していること

経営者の課題

① 目指す姿が無い



② 経営者がやる気が無い



③ 悩むだけで意志決定しない



現場の課題

④ 代替案がないのに単純に嫌がる



⑤ 自分の事と目先しか考えてない



⑥ 予算がない／推進する人がいない



***INDUSTRIAL-***  
DIGITAL/PHYSICAL/HUMAN  
TRANSFORMATION PLATFORMS